

# 枚方市商工だより

(2014年4月)

[主な内容]

地域経済動向調査 VOL-98 (2014年1~3月)

枚方市からのお知らせ(ひこぼしくんを活用しませんか?)

枚方市

【調査の概要】

本調査は、枚方市の委託事業として北大阪商工会議所が実施しているもので、地域経済の総合的な動向を把握することで、産業振興のための基礎資料として利用するとともに、地域の経営者等へ情報提供している。

調査対象は、製造業、建設業、卸売業、小売業、飲食業、サービス業の6業種で、市内の主要な産業を網羅している。

企業規模は、製造業は全数を、その他の業種は、従業者規模5人以上の事業所から無作為抽出している。

調査方法は、往復はがきによるアンケート方式で、2014年4月に884社に発送し、回答期限までに210社から回答が得られた。

全体の回答率は23.8%で、業種別・規模別回答状況は、表1、表2の通りである。

表1. 業種別回答状況

集約業種名		母集団	回答数	回答率
製造業	食料・飲料	21	3	14.3
	繊維・衣服	53	9	17.0
	木材・家具	13	3	23.1
	紙・出版・印刷	31	7	22.6
	化学・プラスチック	49	17	34.7
	鉄鋼・非鉄金属	27	9	33.3
	金属製品	56	15	26.8
	一般機械	58	11	19.0
	電気機械	33	9	27.3
	その他の製造業	41	9	22.0
製造業計		382	92	24.1
非製造業	建設業	108	31	28.7
	卸売業	56	14	25.0
	小売業	150	29	19.3
	飲食店	66	14	21.2
	サービス業	122	30	24.6
非製造業計		502	118	23.5
合計		884	210	23.8

表2. 規模別回答状況

規模別	製造業			非製造業			全体		
	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率	母集団	回答数	回答率
1～3人	78	13	16.7	—	—	—	78	13	16.7
4～9人*	89	18	20.2	253	59	23.3	342	77	22.5
10～19人	66	14	21.2	127	18	14.2	193	32	16.6
20～29人	25	6	24.0	52	14	26.9	77	20	26.0
30～49人	37	15	40.5	35	12	34.3	72	27	37.5
50～99人	33	10	30.3	18	8	44.4	51	18	35.3
100～199人	34	11	32.4	12	4	33.3	46	15	32.6
200～299人	6	1	16.7	3	2	66.7	9	3	33.3
300人以上	14	4	28.6	2	1	50.0	16	5	31.3
合計	382	92	24.1	502	118	23.5	884	210	23.8

\*)非製造業の規模4～9人は5～9人である。

## 【概要】

景気は、緩やかな回復基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる。

先行きについては、当面、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により弱さが残るものの、次第にその影響が薄れ、各種政策の効果が発現するなかで、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。

政府は4月の月例経済報告で、景気の基調判断を「景気は、緩やかな回復基調が続いているが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きもみられる。」としている。個人消費は「消費税率引上げに伴う駆け込み需要もあって、増加している」から「消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、このところ弱い動きとなっている」に変更している。生産は「消費税率引上げに伴う駆け込み需要の影響もあって、増加している」から「消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、おおむね横ばいとなっている」に変更している。企業の業況判断は「幅広く改善している。ただし、先行きに慎重な見方となっている」としている。

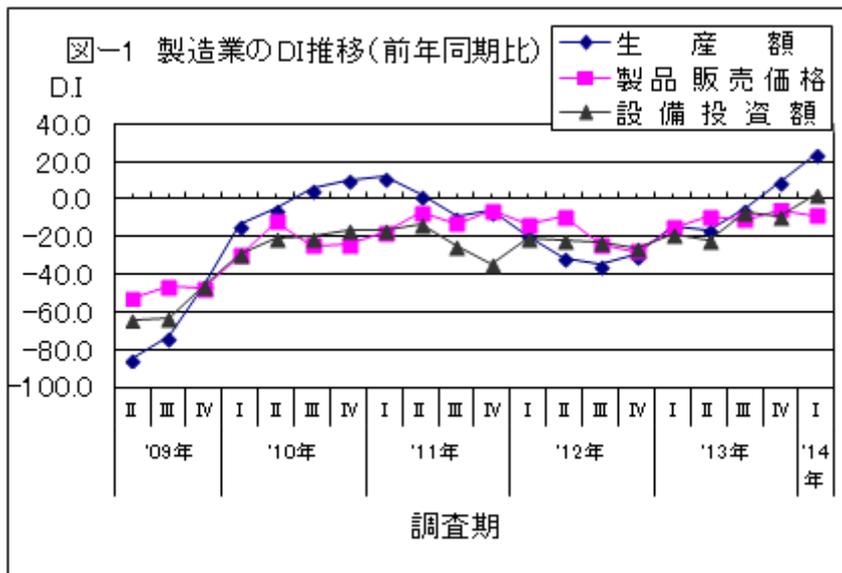
完全失業率は、4月は前月と同率の3.6%となった。完全失業者数は、254万人で前年同月に比べ37万人減少し、47ヶ月連続の減少となった。

帝国データバンクによると、平成26年4月の倒産件数は858件で、前月比は15.3%の増加、前年同月比では5.3%の減少となり、9ヶ月連続前年同月比を下回った。倒産件数のうち、不況型の倒産は716件である。構成比は83.4%で、前月と比べると0.3P、前年同月では2.4P上回った。負債額別にみると、負債5,000万円未満の倒産は470件で、前年同月比3.1%の減少となり、構成比は54.8%と高水準となった。景気D.Iは前期比4.2P減の46.8となり、リーマン・ショックの影響が広がった2008年12月(4.1ポイント減)を上回り、過去最大の落ち込みとなった。

2014年4月の企業倒産件数は858件で、前月(744件)を15.3%上回ったものの、前年同月(906件)を5.3%下回り、9ヶ月連続の前年同月比減少となった。全体の倒産件数は減少傾向を示しているが、業種間での好不調、そして倒産件数の増減傾向がはっきりと分かれてきており、その傾向が今後も続きそうである。

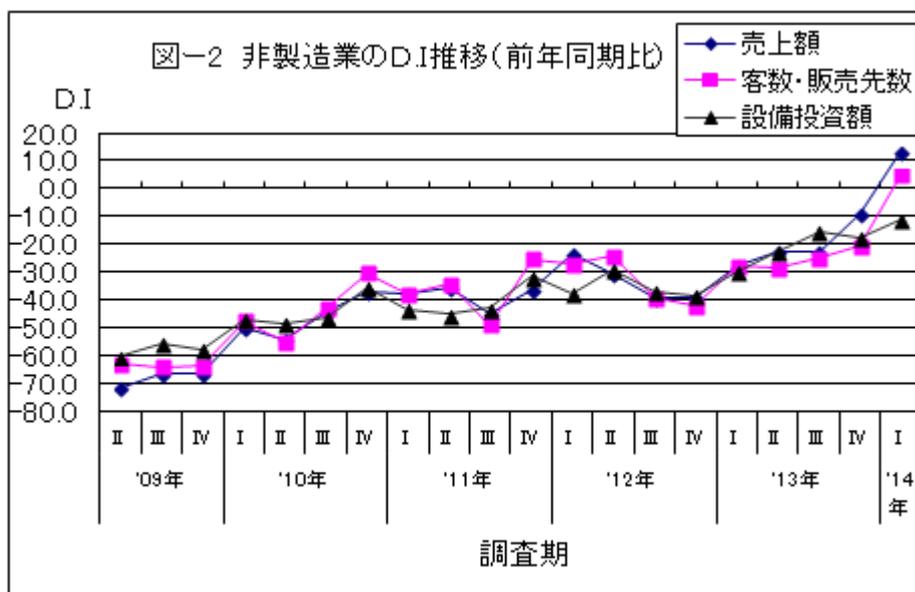
(注) 景気動向指標 (D. I = Diffusion Index)

= (増加・好転した企業の割合) - (減少・悪化した企業の割合)



2014年第1四半期(1~3月)の枚方市の、前期と比較した採算状況は、D.Iのマイナス幅が縮小している。向こう3ヵ月の景況は、D.Iが0からマイナスになっている。

前年同期比では生産額は、D.Iのプラス幅が拡大している。設備投資額は、D.Iがマイナスからプラスに転じている。



非製造業の、前期と比較した売上額は、D.Iが0からプラスになっている。向こう3ヶ月の景況は、D.Iのマイナス幅が拡大している。

前年同期と比較した売上額、客数・販売先数は、D.Iがマイナスからプラスに転じている。

表3 総括表(DIの推移)

景気動向指標		'08年			'09年				'10年				'11年		
		II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I		
製 造 業	前期	生産額	-33.6	-33.0	-56.1	-70.8	-55.7	-27.8	-20.4	-21.0	-5.1	-12.4	-5.7	-3.2	
		出荷額	-28.0	-35.4	-58.8	-68.1	-58.5	-30.8	-19.6	-18.3	-5.0	-9.6	-10.5	-2.2	
		製品在庫額	-14.3	-9.7	-27.5	-23.3	-21.8	-19.6	-11.0	-17.0	-5.3	-3.0	-1.3	0.0	
	比	原材料仕入額	81.3	67.7	6.3	-17.0	-1.9	7.6	-2.8	19.2	32.3	18.3	32.6	37.4	
		製品販売価格	3.8	1.0	-19.8	-38.4	-38.7	-27.4	-31.4	-21.2	-23.5	-18.8	-20.9	-8.7	
		採算状況	-54.2	-56.7	-63.2	-74.6	-63.6	-46.3	-31.5	-38.1	-33.7	-32.4	-31.0	-23.4	
		資金繰り	-27.1	-33.0	-37.2	-52.7	-45.3	-33.6	-28.0	-27.9	-21.4	-24.3	-23.3	-10.8	
	業	前同期 年比	受注状況	-38.7	-43.3	-67.5	-79.8	-69.2	-34.3	-29.9	-21.9	-10.9	-13.3	-14.9	-6.5
			向こう3ヵ月の景況	-34.3	-48.5	-77.0	-67.3	-38.3	-33.3	-30.6	-30.5	-5.0	-28.8	-15.1	-43.6
			生産額	-36.4	-34.0	-59.6	-80.5	-84.9	-72.9	-45.8	-13.3	-5.0	5.7	10.3	11.8
非 製 造 業	前期 比	製品販売価格	4.7	2.1	-18.6	-47.3	-52.8	-46.7	-47.6	-29.8	-12.1	-24.8	-24.4	-18.0	
		設備投資額	-19.2	-26.0	-43.2	-60.9	-64.1	-63.4	-46.6	-29.0	-20.6	-20.2	-16.0	-16.7	
		売上額	-40.3	-38.4	-52.7	-66.7	-47.9	-57.9	-43.5	-43.8	-45.7	-34.6	-24.8	-33.9	
業	前同期 年比	採算状況	-57.0	-55.5	-66.4	-73.9	-60.0	-69.9	-54.4	-54.4	-54.3	-51.1	-49.6	-46.0	
		資金繰り	-38.9	-43.2	-44.3	-56.3	-46.2	-50.4	-40.6	-41.5	-46.5	-40.9	-42.2	-38.2	
		向こう3ヵ月の景況	-52.8	-60.0	-74.0	-67.4	-50.7	-51.9	-63.7	-46.3	-45.5	-48.1	-38.6	-51.3	
		売上額	-35.7	-46.5	-60.3	-67.4	-71.7	-66.7	-66.4	-50.0	-54.4	-44.4	-37.0	-37.8	
非 製 造 業	前期 年比	客数・販売先数	-40.4	-41.1	-54.3	-60.2	-62.7	-64.0	-63.7	-47.5	-55.1	-42.7	-30.4	-37.6	
		設備投資額	-38.8	-37.4	-44.9	-62.2	-60.3	-55.5	-57.8	-47.0	-48.6	-46.5	-35.8	-43.5	

景気動向指標		11年			'12年				'13年				'14年		
		II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I		
製 造 業	前期	生産額	-11.6	-2.4	-15.7	-16.1	-35.4	-40.2	-15.8	-20.2	-6.3	-5.0	12.4	9.8	
		出荷額	-16.5	-4.8	-15.0	-12.0	-38.8	-41.7	-16.0	-20.4	-12.6	-4.0	12.5	8.8	
		製品在庫額	-14.1	-10.1	-11.5	-3.4	-7.3	-11.0	-1.1	1.1	-6.5	-4.2	-1.0	-2.2	
	比	原材料仕入額	39.8	35.7	19.5	28.3	9.3	-1.0	17.4	31.2	47.9	37.8	40.8	38.5	
		製品販売価格	-8.5	-10.8	-12.2	-20.9	-10.3	-22.3	-20.4	-16.3	-6.3	-7.1	-4.9	-10.0	
		採算状況	-38.4	-30.6	-14.5	-31.5	-38.4	-36.7	-27.4	-26.9	-26.0	-25.0	-17.3	-7.6	
		資金繰り	-14.6	-19.3	-14.8	-19.8	-29.9	-16.7	-17.4	-9.8	-13.7	-23.7	-13.6	-15.4	
	業	前同期 年比	受注状況	-17.6	-22.4	-22.9	-22.6	-36.1	-41.8	-28.4	-28.7	-16.7	-5.0	11.4	2.2
			向こう3ヵ月の景況	-8.1	-20.5	-28.8	-18.7	-24.7	-37.5	-16.3	-8.8	-1.1	-2.0	0.0	-31.1
			生産額	2.3	-9.4	-6.1	-19.4	-31.3	-34.7	-29.5	-14.9	-16.5	-5.0	9.5	23.9
非 製 造 業	前期 比	製品販売価格	-7.2	-13.3	-6.2	-13.3	-9.3	-24.0	-28.0	-15.1	-9.4	-11.1	-5.8	-9.0	
		設備投資額	-13.3	-25.0	-35.0	-20.9	-22.1	-22.7	-25.8	-18.5	-21.9	-7.1	-8.8	2.2	
		売上額	-29.4	-35.3	-24.3	-22.4	-30.6	-34.2	-33.9	-24.8	-23.0	-12.1	0.0	7.7	
業	前同期 年比	採算状況	-55.1	-56.7	-41.7	-34.8	-44.6	-48.2	-40.9	-31.9	-35.4	-27.6	-22.0	-21.6	
		資金繰り	-40.3	-47.5	-37.7	-26.1	-40.0	-37.8	-30.4	-27.4	-27.0	-24.0	-17.1	-10.4	
		向こう3ヵ月の景況	-40.5	-37.0	-40.0	-36.8	-46.6	-46.3	-38.9	-16.1	-8.3	-15.2	-13.4	-36.8	
		売上額	-35.6	-45.0	-36.3	-23.3	-30.3	-39.1	-38.9	-27.4	-22.3	-22.9	-9.0	12.9	
非 製 造 業	前期 年比	客数・販売先数	-34.1	-48.9	-25.3	-27.2	-24.1	-39.2	-42.1	-27.7	-28.8	-25.0	-20.5	4.7	
		設備投資額	-45.1	-43.1	-31.5	-37.7	-29.1	-36.8	-38.2	-29.7	-22.9	-15.7	-17.4	-11.4	

# 1. 製造業の景気動向

## ①【生産額】

前期と比べた当期（2014年1～3月）の生産額は、増加37.0%、横這35.9%、減少27.2%となっている。総合D.Iは9.8Pである。業種別にみると、食料・飲料、鉄鋼・非鉄金属、その他の製造業は、増加と横這と減少が拮抗している。木材・家具は、前回0だった増加がみられ、D.Iがプラスに転じている。

前年同期比では、増加48.9%、横這26.1%、減少25.0%となっている。総合D.Iは23.9Pである。業種別にみると、紙・出版・印刷、化学・プラスチック、金属製品、一般機械は、増加が増え、D.Iのプラス幅が拡大している。

表4. 生産額

業種	当期の生産額は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	件数	増加	横這	減少	D.I	
製造業	食料・飲料	3	33.3	33.3	33.3	0.0	3	33.3	33.3	33.3	0.0
	繊維・衣服	9	33.3	11.1	55.6	-22.2	9	22.2	33.3	44.4	-22.2
	木材・家具	3	66.7	33.3	0.0	66.7	3	66.7	0.0	33.3	33.3
	紙・出版・印刷	7	14.3	57.1	28.6	-14.3	7	71.4	28.6	0.0	71.4
	化学・プラスチック	17	47.1	35.3	17.6	29.4	17	64.7	17.6	17.6	47.1
	鉄鋼・非鉄金属	9	33.3	33.3	33.3	0.0	9	44.4	33.3	22.2	22.2
	金属製品	15	46.7	40.0	13.3	33.3	15	53.3	26.7	20.0	33.3
	一般機械	11	36.4	36.4	27.3	9.1	11	54.5	18.2	27.3	27.3
	電気機械	9	22.2	44.4	33.3	-11.1	9	33.3	22.2	44.4	-11.1
	その他の製造業	9	33.3	33.3	33.3	0.0	9	33.3	44.4	22.2	11.1
製造業計	92	37.0	35.9	27.2	9.8	92	48.9	26.1	25.0	23.9	

## ②【出荷額】

当期の出荷額は、増加36.3%、横這36.3%、減少27.5%となっている。総合D.Iは8.8Pである。業種別にみると、飲食・飲料、その他の製造業は、増加と横這と減少が拮抗している。

表5. 出荷額

業種	出荷額は					
	前期に比べ					D.I
	件数	増加	横這	減少		
製造業	食料・飲料	3	33.3	33.3	33.3	0.0
	繊維・衣服	8	25.0	25.0	50.0	-25.0
	木材・家具	3	66.7	33.3	0.0	66.7
	紙・出版・印刷	7	14.3	57.1	28.6	-14.3
	化学・プラスチック	17	47.1	35.3	17.6	29.4
	鉄鋼・非鉄金属	9	22.2	33.3	44.4	-22.2
	金属製品	15	46.7	33.3	20.0	26.7
	一般機械	11	45.5	27.3	27.3	18.2
	電気機械	9	22.2	55.6	22.2	0.0
	その他の製造業	9	33.3	33.3	33.3	0.0
製造業計	91	36.3	36.3	27.5	8.8	

### ③【製品在庫額】

前期と比べた製品在庫額は、不足 3.4%、適正 91.0%、過剰 5.6%である。総合 D.I はマイナス 2.2P となっている。業種別にみると、食料・飲料、木材・家具、紙・出版・印刷、一般機械、電気機械、その他の製造業は、全ての企業が適正である。金属製品は、過剰が減り、D.I のマイナス幅が縮小している。

表6. 製品在庫額

業 種	在庫額は 前期に比べ					
	件数	不足	適正	過剰	D.I	
製	食料・飲料	3	0.0	100.0	0.0	0.0
	繊維・衣服	8	0.0	75.0	25.0	-25.0
	木材・家具	3	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	7	0.0	100.0	0.0	0.0
造	化学・プラスチック	17	5.9	94.1	0.0	5.9
	鉄鋼・非鉄金属	9	11.1	77.8	11.1	0.0
	金属製品	15	6.7	80.0	13.3	-6.7
	一般機械	10	0.0	100.0	0.0	0.0
業	電気機械	9	0.0	100.0	0.0	0.0
	その他の製造業	8	0.0	100.0	0.0	0.0
	製造業計	89	3.4	91.0	5.6	-2.2

### ④【原材料仕入額】

前期と比べた原材料仕入額は、値上がり 40.7%、横這 57.1%、値下がり 2.2%である。総合 D.I はプラス 38.5P となっている。業種別にみると、繊維・衣服は値上がり値下がりが拮抗している。化学・プラスチック、鉄鋼・非鉄金属、金属製品、一般機械、電気機械は、値上がりが増加し D.I のプラス幅が拡大している。

表7. 原材料仕入額

業 種	仕入額は 前期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D.I	
製	食料・飲料	3	66.7	33.3	0.0	66.7
	繊維・衣服	8	25.0	50.0	25.0	0.0
	木材・家具	3	66.7	33.3	0.0	66.7
	紙・出版・印刷	7	28.6	71.4	0.0	28.6
造	化学・プラスチック	17	64.7	35.3	0.0	64.7
	鉄鋼・非鉄金属	9	55.6	44.4	0.0	55.6
	金属製品	15	40.0	60.0	0.0	40.0
	一般機械	11	18.2	81.8	0.0	18.2
業	電気機械	9	33.3	66.7	0.0	33.3
	その他の製造業	9	22.2	77.8	0.0	22.2
	製造業計	91	40.7	57.1	2.2	38.5

## ⑤【製品販売価格】

前期と比べた製品販売価格は、値上がり 1.1%、横這 87.8%、値下がり 11.1%である。総合 D.I はマイナス 10.0P となっている。業種別にみると、食料・飲料、木材・家具、電気機械は全ての企業が横這いである。繊維・衣服は値上がりと値下がりが拮抗している。

前年同期比では、値上がり 7.9%、横這 75.3%、値下がり 16.9%である。総合 D.I はマイナス 9.0P となっている。業種別にみると、食料・飲料、木材・家具は全ての企業が横這いである。繊維・衣服、紙・出版・印刷は、値上がりと値下がりが拮抗している。

表8. 製品販売価格

業 種	当期の販売価格は										
	前期に比べ					前年同期に比べ					
	件数	値上	横這	値下	D.I	件数	値上	横這	値下	D.I	
製 造 業	食料・飲料	3	0.0	100.0	0.0	0.0	3	0.0	100.0	0.0	0.0
	繊維・衣服	7	14.3	71.4	14.3	0.0	7	14.3	71.4	14.3	0.0
	木材・家具	3	0.0	100.0	0.0	0.0	3	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	7	0.0	85.7	14.3	-14.3	7	14.3	71.4	14.3	0.0
	化学・プラスチック	17	0.0	94.1	5.9	-5.9	16	0.0	87.5	12.5	-12.5
	鉄鋼・非鉄金属	9	0.0	88.9	11.1	-11.1	9	11.1	66.7	22.2	-11.1
	金属製品	15	0.0	86.7	13.3	-13.3	15	6.7	73.3	20.0	-13.3
	一般機械	11	0.0	81.8	18.2	-18.2	11	27.3	63.6	9.1	18.2
	電気機械	9	0.0	100.0	0.0	0.0	9	0.0	77.8	22.2	-22.2
	その他の製造業	9	0.0	77.8	22.2	-22.2	9	0.0	66.7	33.3	-33.3
製造業計	90	1.1	87.8	11.1	-10.0	89	7.9	75.3	16.9	-9.0	

## ⑥【採算状況】

前期と比べた採算状況は、好転 18.5%、横這 55.4%、悪化 26.1%である。総合 D.I はマイナス 7.6P である。業種別によると、食料・飲料、電気機械、その他の製造業は悪化が減り、D.I のマイナス幅が縮小している。

表9. 採算状況

業 種	採算状況は					
	前期に比べ					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製 造 業	食料・飲料	3	0.0	66.7	33.3	-33.3
	繊維・衣服	9	11.1	55.6	33.3	-22.2
	木材・家具	3	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	7	14.3	42.9	42.9	-28.6
	化学・プラスチック	17	11.8	70.6	17.6	-5.9
	鉄鋼・非鉄金属	9	22.2	55.6	22.2	0.0
	金属製品	15	33.3	40.0	26.7	6.7
	一般機械	11	27.3	54.5	18.2	9.1
	電気機械	9	11.1	55.6	33.3	-22.2
	その他の製造業	9	22.2	44.4	33.3	-11.1
製造業計	92	18.5	55.4	26.1	-7.6	

## ⑦【資金繰り】

前期と比べた当期の資金繰りは、好転 8.8%、横這 67.0%、悪化 24.2%である。総合 D.I はマイナス 15.4P となっている。業種別にみると、木材・家具は前期に引き続き全ての企業が横這である。金属製品、一般機械は増加が増え、D.I がマイナスからプラスに転じている。

表10. 資金繰り

業 種	資金繰りは 前期に比べ					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製 造 業	食料・飲料	3	0.0	66.7	33.3	-33.3
	繊維・衣服	8	12.5	62.5	25.0	-12.5
	木材・家具	3	0.0	100.0	0.0	0.0
	紙・出版・印刷	7	0.0	85.7	14.3	-14.3
	化学・プラスチック	17	0.0	88.2	11.8	-11.8
	鉄鋼・非鉄金属	9	0.0	55.6	44.4	-44.4
	金属製品	15	26.7	53.3	20.0	6.7
	一般機械	11	18.2	72.7	9.1	9.1
	電気機械	9	0.0	44.4	55.6	-55.6
	その他の製造業	9	11.1	55.6	33.3	-22.2
製造業計	91	8.8	67.0	24.2	-15.4	

## ⑧【受注状況】

前期と比べた当期の受注状況は、増加 26.4%、横這 49.5%、減少 24.2%である。総合 D.I は 2.2P となっている。業種別にみると、食料・飲料、紙・出版・印刷、電気機械、その他の製造業は増加と減少が拮抗している。木材・家具は減少が減り、D.I のマイナス幅が縮小している。

表11. 受注状況

業 種	受注状況は 前期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製 造 業	食料・飲料	3	33.3	33.3	33.3	0.0
	繊維・衣服	9	33.3	22.2	44.4	-11.1
	木材・家具	3	0.0	66.7	33.3	-33.3
	紙・出版・印刷	7	14.3	71.4	14.3	0.0
	化学・プラスチック	16	25.0	62.5	12.5	12.5
	鉄鋼・非鉄金属	9	11.1	66.7	22.2	-11.1
	金属製品	15	40.0	46.7	13.3	26.7
	一般機械	11	18.2	54.5	27.3	-9.1
	電気機械	9	22.2	55.6	22.2	0.0
	その他の製造業	9	44.4	11.1	44.4	0.0
製造業計	91	26.4	49.5	24.2	2.2	

### ⑨【設備投資額】

前年同期と比べた当期の設備投資額は、増加 21.1%、横這 60.0%、減少 18.9%である。総合 D.I はマイナス 2.2P となっている。業種別にみると、食料・飲料、紙・出版・印刷、化学・プラスチックは増加が増え、D.I が 0 からプラスになっている。

表12. 設備投資額

業種	設備投資額は 前年同期に比べ					
	件数	増加	横這	減少	D.I	
製	食料・飲料	3	33.3	66.7	0.0	33.3
	繊維・衣服	8	12.5	62.5	25.0	-12.5
	木材・家具	3	0.0	100.0	0.0	0.0
造	紙・出版・印刷	7	57.1	28.6	14.3	42.9
	化学・プラスチック	16	25.0	56.3	18.8	6.3
	鉄鋼・非鉄金属	9	11.1	66.7	22.2	-11.1
業	金属製品	15	13.3	66.7	20.0	-6.7
	一般機械	11	27.3	54.5	18.2	9.1
	電気機械	9	22.2	55.6	22.2	0.0
	その他の製造業	9	11.1	66.7	22.2	-11.1
	製造業計	90	21.1	60.0	18.9	2.2

### ⑩【向こう3カ月の景況】

向こう3カ月の景況は、好転 10.0%、横這 48.9%、悪化 41.1%である。総合 D.I はマイナス 31.1P となっている。業種別にみると、繊維・衣服、鉄鋼・非鉄金属、一般機械は好転がなくなり、D.I がプラスからマイナスになっている。木材・家具は前回 0 だった悪化がみられ、D.I が 0 からマイナスになっている。

表13. 向こう3カ月の景況

業種	向こう 3カ月の景況					
	件数	好転	横這	悪化	D.I	
製	食料・飲料	3	33.3	66.7	0.0	33.3
	繊維・衣服	8	0.0	62.5	37.5	-37.5
	木材・家具	3	0.0	33.3	66.7	-66.7
造	紙・出版・印刷	7	0.0	57.1	42.9	-42.9
	化学・プラスチック	17	5.9	47.1	47.1	-41.2
	鉄鋼・非鉄金属	9	0.0	55.6	44.4	-44.4
業	金属製品	15	13.3	53.3	33.3	-20.0
	一般機械	10	0.0	60.0	40.0	-40.0
	電気機械	9	22.2	11.1	66.7	-44.4
	その他の製造業	9	33.3	44.4	22.2	11.1
	製造業計	90	10.0	48.9	41.1	-31.1

## 2. 建設業の景気動向

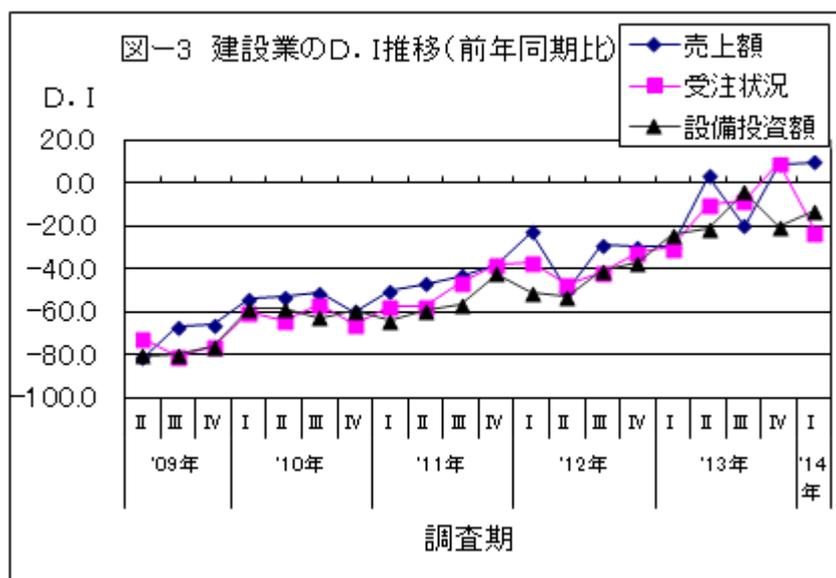
建設業の受注単価は値上がりが減り、D. I がプラスからマイナスになっている。採算状況は悪化が減り、D. I のマイナス幅が縮小している。

向こう3ヵ月の景況は悪化が増え、D. I がプラスからマイナスになっている。

表14. 建設業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D. I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	31	35.5	38.7	25.8	9.7
	資材仕入価格	31	45.2	54.8	0.0	45.2
	労務費	31	29.0	71.0	0.0	29.0
	工事引合件数	31	29.0	45.2	25.8	3.2
	受注単価	31	9.7	67.7	22.6	-12.9
	採算状況	30	6.7	66.7	26.7	-20.0
	資金繰り	31	9.7	71.0	19.4	-9.7
	受注状況	31	29.0	41.9	29.0	0.0
	向こう3ヵ月の景況	31	12.9	29.0	58.1	-45.2
前年同期比	売上額	31	41.9	25.8	32.3	9.7
	受注状況	31	12.9	51.6	35.5	-22.6
年比	設備投資額	30	16.7	53.3	30.0	-13.3

前年同期比では、売上額は増加が増え、D. I のプラス幅が拡大している。受注状況は悪化が増え、D. I がプラスからマイナスになっている。設備投資額は増加が増え、D. I のマイナス幅が縮小している。



### 3. 卸売業の景気動向

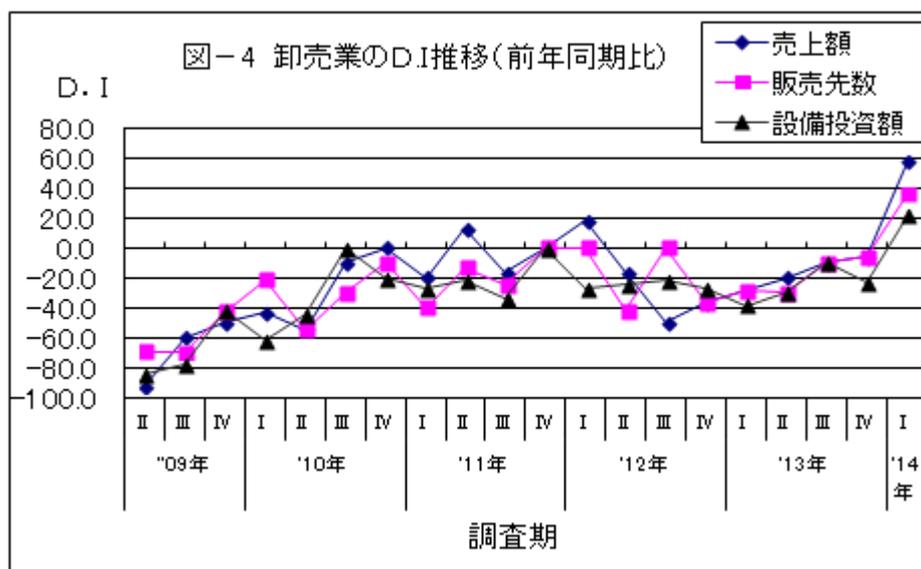
卸売業の売上額は増加が増え、D.Iのプラス幅が拡大している。採算状況は悪化が減り、D.Iがマイナスから0になっている。資金繰りは好転が減り、D.Iのマイナス幅が拡大している。

向こう3カ月の景況は悪化が増え、D.Iのマイナス幅が拡大している。

表15. 卸売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	14	71.4	21.4	7.1	64.3
	販売先数	14	35.7	50.0	14.3	21.4
	客単価	14	42.9	42.9	14.3	28.6
	商品仕入価格	14	78.6	21.4	0.0	78.6
	商品在庫	14	21.4	71.4	7.1	14.3
	商品販売価格	14	42.9	42.9	14.3	28.6
	採算状況	14	14.3	71.4	14.3	0.0
	資金繰り	14	7.1	71.4	21.4	-14.3
	荒利益率	14	7.1	57.1	35.7	-28.6
	向こう3カ月の景況	14	7.1	35.7	57.1	-50.0
前年同期比	売上額	14	71.4	14.3	14.3	57.1
	販売先数	14	50.0	35.7	14.3	35.7
	設備投資額	14	28.6	64.3	7.1	21.4

前年同期比では、売上額、販売先数、設備投資額は増加が増え、D.Iがマイナスからプラスになっている。



#### 4. 小売業の景気動向

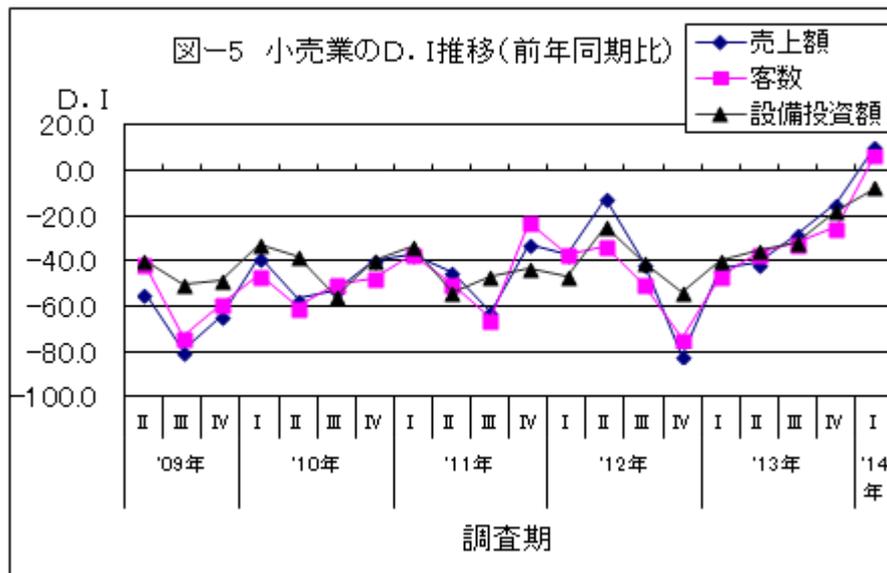
小売業の売上額は増加が増え、D. I がマイナスからプラスになっている。客単価、商品販売価格は値上がりが増え、D. I がマイナスからプラスになっている。客数は増加が増え、D. I のマイナス幅が縮小している。

向こう3カ月の景況は好転がなくなり、D. I のマイナス幅が拡大している。

表16. 小売業の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	29	37.9	27.6	34.5	3.4
	客数	29	37.9	20.7	41.4	-3.4
	客単価	29	31.0	48.3	20.7	10.3
	商品仕入価格	29	41.4	55.2	3.4	37.9
	商品在庫	28	14.3	50.0	35.7	-21.4
	商品販売価格	28	25.0	64.3	10.7	14.3
	採算状況	29	13.8	37.9	48.3	-34.5
	資金繰り	27	11.1	48.1	40.7	-29.6
	荒利益率	28	14.3	50.0	35.7	-21.4
向こう3カ月の景況	29	0.0	37.9	62.1	-62.1	
前年同期比	売上額	28	42.9	25.0	32.1	10.7
	客数	28	42.9	21.4	35.7	7.1
	設備投資額	27	14.8	63.0	22.2	-7.4

前年同期比では、売上額、客数は増加が増え、D. I がマイナスからプラスになっている。設備投資額は減少が減り、D. I のマイナス幅が縮小している。



## 5. 飲食店の景気動向

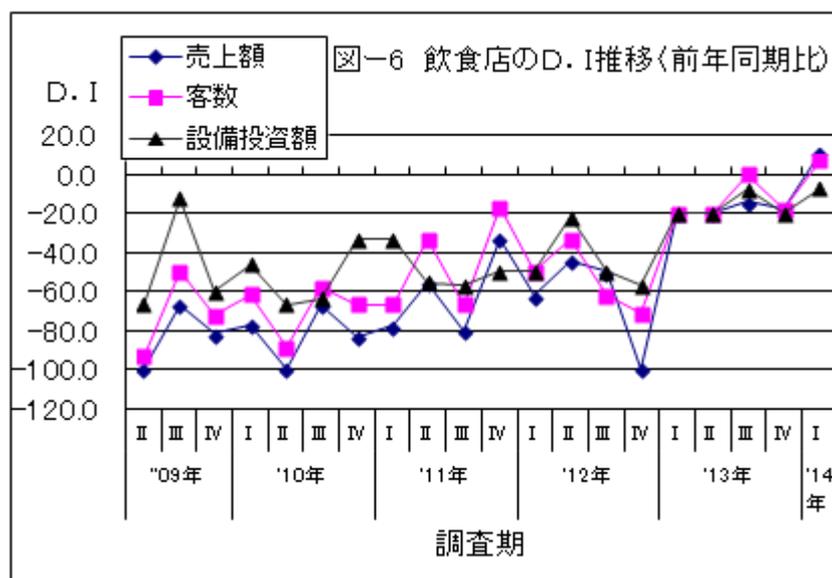
飲食店の客数は増加が増え、D.I がマイナスからプラスになっている。採算状況、荒利益率は前回 0 だった好転がみられ、D.I のマイナス幅が縮小している。

向こう 3 ヶ月の景況は好転が増え、D.I がマイナスからプラスになっている。

表17. 飲食店の景気動向

景気動向指標	事業所数	増加	横這	減少	D.I	
		不足	適正	過剰		
		値上	横這	値下		
		好転	横這	悪化		
前期比	売上額	14	35.7	28.6	35.7	0.0
	客数	14	42.9	28.6	28.6	14.3
	客単価	14	14.3	57.1	28.6	-14.3
	採算状況	14	28.6	28.6	42.9	-14.3
	資金繰り	14	28.6	50.0	21.4	7.1
	荒利益率	14	21.4	21.4	57.1	-35.7
	向こう3ヵ月の景況	14	21.4	64.3	14.3	7.1
前年同期比	売上額	14	42.9	28.6	28.6	14.3
	客数	14	42.9	28.6	28.6	14.3
年比	設備投資額	14	7.1	57.1	35.7	-28.6

前年同期比では、売上額、客数は増加が増え、D.I がマイナスからプラスになっている。設備投資額は減少が増え、D.I のマイナス幅が拡大している。



## 6. サービス業の景気動向

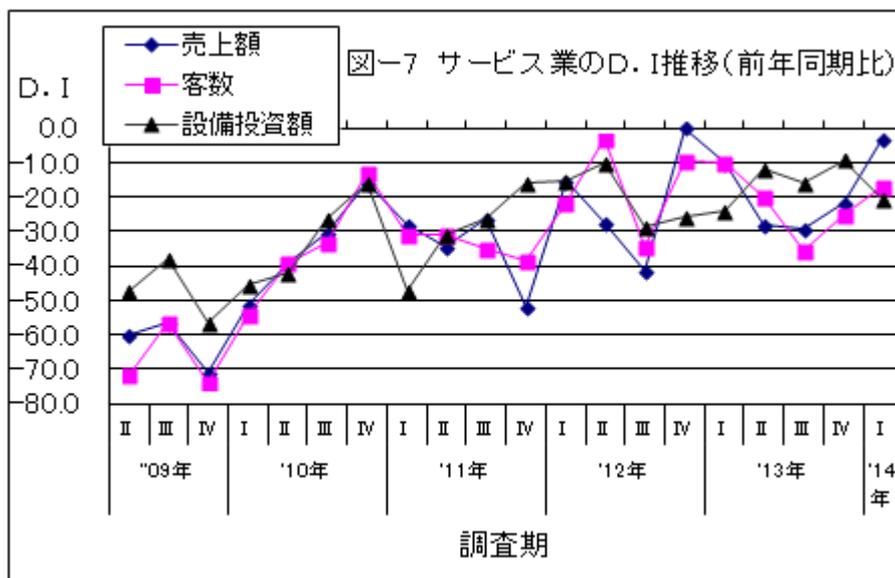
サービス業の客数は増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。採算状況は好転が減り、D.Iのマイナス幅が拡大している。

向こう3ヵ月の景況は好転が減り、D.Iのマイナス幅が拡大している。

表18. サービス業の景気動向

景気動向指標		事業所数	増加	横這	減少	D.I
			不足	適正	過剰	
			値上	横這	値下	
			好転	横這	悪化	
前期比	売上額	29	20.7	44.8	34.5	-13.8
	客数	28	17.9	50.0	32.1	-14.3
	客単価	29	6.9	69.0	24.1	-17.2
	採算状況	29	6.9	62.1	31.0	-24.1
	資金繰り	29	6.9	86.2	6.9	0.0
	荒利益率	29	3.4	72.4	24.1	-20.7
	向こう3ヵ月の景況	29	6.9	69.0	24.1	-17.2
前年同期比	売上額	29	24.1	48.3	27.6	-3.4
	客数	29	17.2	48.3	34.5	-17.2
	設備投資額	29	3.4	72.4	24.1	-20.7

前年同期比では、売上額、客数は増加が増え、D.Iのマイナス幅が縮小している。設備投資額は増加が減り、D.Iのマイナス幅が拡大している。



### — 枚方市の当期の特徴 —

- ・ 製造業は、前年同期比では生産額は大幅に改善しているが、前期と比べ受注状況が悪化しており、先行き不透明である。
- ・ 非製造業は、全ての業種において売上が増加しているが、飲食店を除く業種では向こう3ヵ月の景況が悪化しており、見通しは暗い。

自由意見

産業分類	規模	自由意見
食料品製造業	G	お得意先に商品値上げを今後交渉していく
衣服・その他繊維製造業	A	今、新企画デザイン等切り替えで一服です。
パルプ・紙・紙加工品製造業	C	消費税増税の影響が本格的に出てくることを懸念しています。
鉄鋼業	C	高水準高利益を継続中であるが、しっかりと前を見ていきたい。
	G	大手完成品メーカーから素材メーカーへのコストダウンが厳しく、電力代のアップが転嫁できない。
非鉄金属製造業	C	消費税がらみの影響で4～6月の受注は低調です。以前のような長期的な落ち込みはなさそうな気配です。客先は海外を含めた買い方をしているので要注意です。
金属製品製造業	D	消費税8%になり急に注文が激減した。本当に良くなるのか？又、5%8%の経理上の切り替えに手間がかかり困った。(コンピュータ打込み)
	F	増税の影響で厳しくなると思う。アベノミクス効果は中小企業にはありませんね。
一般機械器具製造業	F	車の大きさにより大きく違いが出ている為社内の生産に対しても調整が難しくなっている。
電気機械器具製造業	B	国内で製造業は今後お先真っ暗な状況になると思われる。
	E	中小企業に思慮のある政策がより多く必要
輸送用機械器具	E	若干アベノミクスの波及効果が現れたのかもしれない。但しそうしたものに頼らず自発的な成長戦略を進んでいきたい。
その他の製造業	B	消費税アップ後の落ち込みが懸念されるため、景気浮上策にて公共工事の拡大を願います。
設備工事業	B	新人が入りにくい。求人がうまく入ってこない事が問題点。業界といっても弊社は小さな業界ではあるが見込み受注は過多気味であるほどにある
繊維・衣服等卸売業	B	荷動きのスピードが遅い
建築材料・鉱物・金属材料等卸売業	A	中小、零細企業は資金繰りができなくて困っています
各種商品小売業	G	2月3月は増税前の駆け込み需要もあり前年比2.5%の増。4月に入ってから約5%のマイナスで推移。今後持ち直しに期待できる水準にはある。
繊維・衣服・身の回り品小売業	B	アベノミクスのお陰で良くなりました。今後消費税増税でかなり厳しくなることと思います。
飲食料品小売業	C	消費税が上がって買い控え、前回消費税が上がった時より物の動きはましかも
家具・建具・じゅう器小売業	B	ボランティアが多く、本来の仕事は他業種へ取られ、情けない限りである。
一般飲食店	B	商店通りに空地、空き家が多くなり、人足が少なく、活気がなくなりさびしい限りです。
		去年は最悪の売り上げでしたが、今年に入り増加したものの、仕入が上がり採算状況は悪くなった。
		もっとイベントで芸能人を呼んで、全国に告知したい。非常に難しいです

		26年3月より移転し、新店舗での営業開始。売上を伸ばしたい と思います。
	E	平成26年度は、14年ぶりに売上が前年より毎月上がっています
	F	特にありませんが、8%増税後も良い状況で一安心ですね。
洗濯・理容・浴 場業	B	消費税8%になりますます客ばなれしそう
専門サービス業	D	会費改定、税改定のボディブローが少しずつ・・・

規模区分    A = 1～3人、B = 4～9人、C = 10～19人、D = 20～29人、  
E = 30～49人、F = 50～99人、G = 100人以上